

マイスター



通信

chance ! challenge !! change!!!

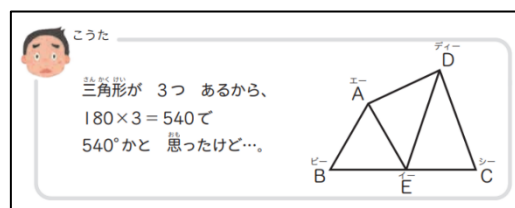
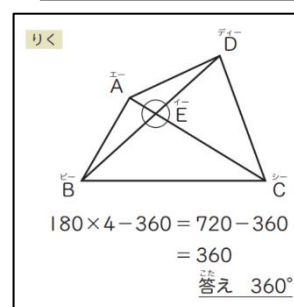
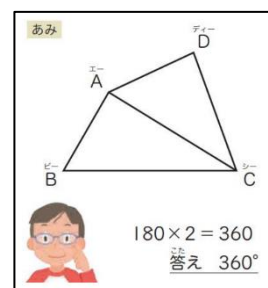
寒河江市立
寒河江中部小学校
マイスター通信
No. 6
令和8年9月2日
文責：軽部 隆一郎

ICTの効果的な活用についての一考察

子どもたちのICT活用については、「文房具のように」や「使用することが目的にならないように」など、様々検討されてきたと思います。では実際に、どのように活用したらいいのか、自身の実践の具体的な例を挙げながら考えていきたいと思います。私からの「提案」ということで、先生方と一緒に考えていけたら幸いです。

□子どもたちの考えを出し合う

- 算数の「図形の角」の学習では、子どもたちに四角形が三角形2つに分割された図とその内角の和を求める式が示されているカードをオクリンクプラスで送信しました。子どもたちはその図と式から、どのような求め方なのかを言葉で説明するという学習に取り組みました。まずは自分で考えて入力し、その後タブレットを持ち歩きながら友達と交流して確かめたり、引き続き黙々と自分の考えを入力したりしました。友達同士で考えを見合うことが容易にできる長所があります。また、友達の考えを受け、自分の考えを簡単に修正することもできます。私の感覚的なものに過ぎないのですが、オクリンクプラスの「みんなのボード」上でのやり取り（子どもたちの交流）よりも、タブレットを持ち歩いて見合う方が、子どもたちの言葉でのやり取りは増え、交流は活発になるのではないかと思います。



□ふり返りの蓄積

- 算数の「図形の角」の学習では、最初に三角形の内角の和、次に四角形、そして五角形・・・と演繹的に考えていきます。その際、既習事項がとても大事になり、必ず導入では前回の大事なポイントを子どもたちと確認したうえで、本時の課題に入るようにしました。その際、子どもたちに「前回の授業で大事なボ

イントは何だった？」と問うと、タブレットでオクリンクプラスの「提出ボックス」を見て、前時のふり返しを確認する姿がありました。**ふり返しを蓄積できて、容易に確認できる良さ**があると思います。また、タブレットで文字を打ち込む方が、子どもたちは**長文でまとめることができる**ようになっていると感じます。

□家庭学習

- ・5年生は「読む力・読解力」が課題と考えているため、まずは基盤となる音読に力を入れていくことを担任団で意思疎通を図りました。そこで、宿題に音読を出すだけではなく、**音読に緊張感などをもたせる**ためにも、オクリンクプラスで音読を録音し、提出ボックスに出すことを宿題にしました。提出された子どもたちの音読を聞くと、とても丁寧に一生懸命取り組んでいることが子どもたちの声から分かりました。
- ・公開研の授業でも考えていることですが、**予習をオクリンクプラスで提出する宿題**を出そうと思っています。自分の考えを事前に提出することで、**宿題で自力解決の時間を確保できるので、学校の授業では違う活動にその時間を使える**ことになります。これまで、授業で課題提示し、タブレットに自分の考えを入力し、その後、自由交流、全体交流、まとめ、ふり返し・・・を行おうとすると、一つ一つの活動が十分にやり切れない状況がありました。単純に「次の授業に持ち越せば・・・」という意見もあるかもしれませんが、限られた時間の中で、決められた学習内容（コンテンツ）を進めなければなりません。特に算数は系統性がとても大事になる教科ですので、コンピテンシーと言われるこの時代ですが、コンテンツも大事だと私は思います。時間を有効に使うためにも、宿題で予習するなど、とても有効な方法であると考えます。